

4 徳島県立文学書道館【予算 24,296千円】

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親しみ利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図る。

(1) 顕彰、表彰事業【予算 1,640千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	第16回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(小説・脚本・文芸評論・児童文学・随筆・現代詩・短歌・俳句・川柳・連句の10部門)を募集し、発表の場を提供することにより文芸活動の活性化、県民文化の向上を図る。各部門の入選作品は、「文芸とくしま」に掲載し紹介する。</p> <p>応募締切:9月30日(日)当日消印有効 発表:12月中旬(新聞紙上・館内掲示・HP) 表彰式:平成31年2月11日(月・祝)</p>	1,640,000	
	小計		1,640,000	

(2) 年鑑編集・刊行事業【予算 770千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	ことのは文庫 「田中富雄作品集」	<p>当館の常設展示作家・田中富雄(元「徳島作家」主宰)が残した「生口記」など、歴史小説の名品を1冊にまとめ、刊行する。</p> <p>文庫本サイズ 1,000部</p>	500,000	
2	研究紀要「水脈」15号	<p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料等の調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行する。</p> <p>B5版サイズ 700部</p>	270,000	
	小計		770,000	

(3) 教育普及育成事業【予算 3,521千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	文学講座 荒川洋治の文学入門	<p>現代を代表する詩人であり、読書論、文学論でも定評のある荒川洋治が、読書の楽しさ、文学の面白さを語る。</p> <p>日時:4月～9月(全6回・各土曜) 会場:講座室</p>	750,000	
2	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家・研究者に専門分野の話をしていただき、平和で心豊かな社会の創造について考える。</p> <p>日時:4月～7月(全4回・各土曜) 会場:講座室</p>	283,000	
3	文学講座 言の葉テーマ朗読会	<p>展覧会のテーマにちなんだ文章を、講座生の中から希望者8人が5分ずつ読み、一般に公開する。</p> <p>日時:5月～1月(全4回) 会場:講座室</p>	10,000	

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
4	文学講座 若い人たちのための小説家養成講座	18～39歳を対象にした小説の実作講座。講師は作家であり、実作指導に定評のある四国大学の佐々木義登教授。 日時:8月～3月(全8回・各土曜) 会場:講座室	250,000	
5	文学講座 短歌の鑑賞と実作講座	「雲珠短歌会」代表で徳島新聞「徳島歌壇」選者でもある竹安隆代氏を講師に迎え、優れた短歌の鑑賞と実作を行う。また参加者が互いの作品について感想を述べ合う。 日時:9月～2月(全6回・各土曜) 会場:講座室	130,000	
6	第17回言の葉朗読会	朗読を楽しみ、朗読の質の向上をめざす人たちに舞台を提供し、朗読を聞くことが好きな人たちにその機会を設ける。朗読愛好家がそれぞれ選んだ文学作品を5分以内で朗読する。 日時: 9月22日(土) 会場:講座室	10,000	
7	文学講座 秋の文学講演会	現在、第一線で活躍している作家や詩人、歌人、俳人などを招き、これまでの歩みや自作について話してもらい、文学についての理解を深め、世界や人間の在り方を考える。 日時:10月～11月(全2回) 会場:ギャラリー	450,000	
8	書道講座 かなを学ぶ 連綿	基本的な筆遣い「単体」に続く応用講座「連綿」。かなは日本人の美意識によって形作られ、その情感を表現するのに最もふさわしい文字である。とりわけ連綿(続け書き)は仮名の特徴一流れを最も美しく表現することができるものである。本講座では連綿法を習得し、流動美あふれる美しい仮名を学ぶ。 日時:6月～7月(全3回・各火曜) 会場:実習室	70,000	
9	書道講座 書道創作講座 草書	これまでに開催の書体別基本講座を踏まえた創作講座。草書の筆遣い、字形、紙面のまとめ方など、創作の仕方を学び、草書制作の楽しさを味わってもらう。 日時:7月(全3回・各日曜) 会場:実習室	70,000	

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
10	書道講座 自作の句を書こう	作句の方法と書の表現を学んで、全てがオリジナルの書道作品を制作する。創作の楽しみを味わうとともに、書の題材や表現について理解を深めてもらう。 日時:未定(全4回) 会場:実習室	90,000	
11	書道講座 肖形印を作ろう	書のジャンルの中にあって、篆刻は「作る楽しみ」を味わえるものである。とりわけ肖形印は人物や動植物といったものを題材とし、文字を組み合わせることもできる。年賀状などに使用できる肖形印(3cm角)の制作を通して篆刻に親しんでもらう。 日時:8月(全3回・各金曜) 会場:実習室	72,000	
12	書道講座 外国人のための書道講座	外国人対象の書道講座。筆の持ち方や基本的な筆遣い、美しい文字の形を学び、小品を制作する。 日時:10月21日(日)(全2回) 会場:実習室	12,000	
13	書道講座 書の鑑賞 漢字	昨年度に続く書の鑑賞講座。漢字の名品をわかりやすく解説し、書の実しさや魅力について理解を深めてもらう。 日時:未定 会場:講座室	181,000	
14	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦!	小学生対象の講座。新年の書き初めにちなんで、漢字一字を特大筆(全長46cm・穂長14.5cm・穂径4cm)で68×70cmの紙に書く。大字を書くことで、書に親しみ、書の楽しさを知ってもらおう。 日時:1月6日(日) 会場:講座室・実習室	43,000	
15	ことのはロビーコンサート	文学・書道ファンだけでなく、より多くの県民に文学書道館の存在を知ってもらい、さらに足を運んでもらって、文学・書道と音楽の深いつながりを気軽に楽しく体感してもらおう。県内で活躍する演奏家もしくは徳島にゆかりのある演奏家を招き、2カ月に一度のペースでコンサートを行う。 日時:5月～3月(全6回・各日曜) 会場:1階ロビー	1,100,000	
	小計		3,521,000	

(4) 展示事業【予算 18,365千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生をたどりながら寂聴文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和ませる日本庭園を設置している。また、年1回程度の展示替えを行っている。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	—	
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島の人・場所・文化が織りなす文学回廊。徳島にゆかりの深い文学者とその作品、著名作家が徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から紹介している。展示室では、年2回の企画展も開催している。 期間:通年 会場:文学常設展示室	—	
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラスウォールを通して公開している。また、特別展に関連した展示や収蔵品を紹介する。 期間:通年 会場:収蔵展示室	—	
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	収蔵品の中から、徳島ゆかりの書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書斎を再現している。 年3回展示替えをし、豊富な作品を幅広く紹介する。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	—	
5	文学特別展 寂聴「手毬」—良寛と貞心の愛— (特別展示事業)	瀬戸内寂聴は小説『手毬』(1991年、新潮社刊)で禅宗の僧良寛と貞心尼の清らかな魂の交流を描き、映画化もされた。本展では寂聴がいかにか二人の愛をとらえ、『手毬』に結実させたかをたどり、詠み交わした歌を中心に、その内容を紹介する。また、良寛、貞心尼らの直筆、絵画等を借用展示し、二人の生き方、芸術性、人柄をしのぶ。 期間:4月8日～5月27日 44日間 会場:特別展示室・ギャラリー	2,690,000	
6	書道特別展 小坂奇石の折帖 (特別展示事業)	小坂奇石(1901-91年)は、独創的で他の追随を許さない独自の書風を確立した昭和を代表する書家である。当館では、遺族より寄贈された作品を中心に約500点の作品を収蔵しており、毎年それらの中から選りすぐりの作品を紹介している。今回は折帖がテーマ。折帖は、その多くが臨書手本として書かれたもので、作品とは異なった趣がある。このほか奇石の学書や臨書観も併せて紹介する。 期間:6月22日～8月5日 39日間 会場:特別展示室・ギャラリー	1,183,000	

(4) 展示事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
7	文学特別展 竹宮恵子 カレイドス コープ 50th Anniversary (特別展示事業)	「風と木の詩」や「地球へ…」などの作品で知られ、少女漫画を革新・リードしてきた漫画家・竹宮恵子。京都精華大学学長など多方面で活躍し、最近では自伝エッセイ『少年の名はジルベール』でも話題を呼んでいる。1967年、「COM」に「このつの友情」を投稿し、掲載されてから50周年を迎えたのを機に、竹宮の画業をたどる。 期間:8月11日～9月24日 40日間 会場:特別展示室・ギャラリー	2,350,000	
8	書道特別展 荒井天鶴展 (特別展示事業)	書家・荒井天鶴(1914-2007年)は、戦後、徳島の書壇を中心になってリードした人であった。とりわけ近代詩文書を提唱し徳島に根付かせた功績は大きい。1948年、県内初の書道結社「徳島書芸院」を創立、同年に月刊書道誌「彫琢」を発刊した。また35年にわたって県展の審査にもあたった。本展では、若年から晩年までの多様な作品を展示するとともに、その高い見識が語られた書論を紹介、天鶴の業績を回顧する。 期間:10月5日～11月18日 39日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	1,586,000	
9	文学特別展 有吉佐和子と丸川賀世子 (特別展示事業)	一世を風靡し、今日なお愛され読まれ続ける作家・有吉佐和子と、友人として、作家として、近くで彼女を見つめ続けてきた徳島市出身の丸川賀世子。丸川の著書『有吉佐和子とわたし』(1993年、文芸春秋刊)を基に、二人の友情に焦点を当て、その生き生きとした豊かな時間を再現する。 期間:12月16日～2月8日 40日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	2,130,000	
10	書道特別展 巨匠の書一きらめく独創 (特別展示事業)	戦後、日本の書壇は大きな変貌を遂げた。現代書のありようについて活発な議論が展開され、それぞれの持論を強く主張した独創的な作品が次々と発表された。それらの作は、今なお観る者をうならせ、魅了してやまない。本展では、巨匠の代表作や傑作を一堂に集め、現代書を美しく彩った作品を紹介する。 期間:2月15日～3月30日 38日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	5,685,000	
11	文学企画展 「明星」と徳島の歌人たち (企画展示事業)	1900(明治33)年4月、短歌革新を唱えて与謝野寛が創立した新詩社の機関誌として創刊された文芸誌「明星」。その誌面を飾った徳島の歌人たちを紹介するとともに、1931(昭和6)年に与謝野寛・晶子夫妻が徳島を訪問した時の様子を併せて展示する。 期間:5月25日～7月31日 55日間 会場:文学常設展示室	209,000	

(4) 展示事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
12	書道企画展 中林梧竹の長条幅 (企画展示事業)	中林梧竹は近代書道史に名を連ね、明治の三筆に挙げられる書家。当館では、海老塚的伝氏より寄贈の傑作を中心に約300点を収蔵しており、毎年、梧竹の展覧会を開催している。今回は、「長条幅」(縦およそ250cm)の作品を展示、紹介する。 期間:6月19日～10月2日 92日間 会場:書道美術常設展示室	140,000	
13	文学企画展 阿波路の山頭火 (企画展示事業)	漂泊の俳人として知られる種田山頭火(1882-1940年)は、1928年と39年に旅の途上で徳島を訪れている。山頭火の日記や俳句、山頭火の伝記などから、その足跡を紹介する。 期間:11月10日～1月20日 55日間 会場:文学常設展示室	797,000	
14	書道企画展 第3回 書道創作グランプリ (企画展示事業)	徳島県内の小学校4年生から高校3年生までを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し席書する全国的にも稀なコンクールである。席書作品270点(各学年30点。高校は「漢字」「漢字仮名交じり」「仮名」の3部門各30点)と招待出場者(これまでのグランプリ受賞者、準グランプリ2回受賞者)の作品を展示し、各学年・部門のグランプリ、準グランプリ、金賞受賞者90人を表彰する。 期間:12月1日～11日 9日間 会場:ギャラリー	712,000	
15	書道企画展 「今年の一字」展2018 (企画展示事業)	「一年を振り返って、今年を象徴する漢字一字、あるいは思い出に残る漢字一字」を募集し、全ての応募作品をロビーに展示する。作品は、葉書大とし、毛筆で書いたものとする。 期間:12月12日～27日 14日間 会場:1階ロビー	46,000	
16	文学企画展 街のポーカーフェイス展 (企画展示事業)	徳島県出身のグラフィックデザイナー・阪東勲は2000年まで大丸本社デザイン室に所属し、1988年に大阪花の万博シンボルキャラクターコンペで優秀賞を受賞したり、90年大阪工芸協会シンボルマークデザインコンペで1位に入賞するなど活躍。また77年から街で見かけたモノに潜む人間の「顔」を撮影し、94年週刊文春で「街のポーカーフェイス」がグラビア特集され話題になって以来、ユーモラスな「顔」を撮り続けている。本展では阪東の代表作と短いエッセイを展示する。ギャラリートークと「街を歩いて顔探し」をテーマにしたワークショップも開催する。 期間:12月16日～2月8日 40日間 会場:ギャラリー	837,000	
	小計		18,365,000	
	合計		24,296,000	